

Sinfonia

シンフォニア

Alain Altinoglu

Bruce Liu

大和証券グループ Presents

フランクフルト放送交響楽団

Frankfurt Radio Symphony 大阪公演



Close Up

ジルベスターコンサート2024・
ニューイヤーコンサート2025

オールスター紅白オペラ歌合戦2024

シャルル・リシャル＝アムラン ピアノ・リサイタル

ほか

ケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団 大阪公演

「ヴァイオリン」 諏訪内晶子

Interview

「世界の巨匠とともに」第3弾には日本が誇る、現代ヴァイオリン・シーンの女神（ミューズ）が降臨。



©キセキミチコ

銘器グアルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」と共に：近年は（2012年に創設した）「国際音楽祭 NIPPON」の芸術監督としても活躍中で、今年も112月にかけて「モーツァルトヴァイオリン協奏曲全曲演奏会」や「室内楽プログラム」などの意欲的な企画を成功させたばかりですね。女性が監督を務める音楽祭という1998年から開催されている別府アルゲリッチ音楽祭などがあるのですが、私も立ち上げたからにはできるだけ長く続けたいという目標があつて、続けてきました。ただのソリストだった自分が音楽会を作る立場になって演奏家同士を繋げたり、マスタークラスを開いて若手の育成を手掛けることは簡単ではなかったけれど、とても意義を感じたのです。今ではあそこで学んだ小中学生が国際的なコンクールで入賞を果たしたり、優秀な演奏家として音楽祭のステージに出演してくれるようになったことがいば嬉しいです。やつとこまで来られた、やはり時間をかけて取り組まないと実現しないこともあるのだと感じている反面、今後はこれをどう掘り下げ深めていけるかが大きな課題です。

――奏者としては、2000年から愛奏してきた1714年製作のストラディヴァリウス「ドルフィン」



©Holger Talinski



【管弦楽】ケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団

に別れを告げ、3年半ほど前から1732年製作のグアルネリ・デル・ジェズ（※ストラディヴァリと並ぶ名工一族の3代目が手掛けた「神の手による」の意味を持つ銘器ブランド）「チャールズ・リード」と新たな歩みを始められました。

どちらも銘器ですが製作者も違いますし全く異なるタイプのヴァイオリンです。ストラディヴァリウスは非常に完成された楽器で個性が強く、楽器そのものが持つ音が自然に紡がれるようにこちらが歩み寄っていく感じでした

が、約20年かけてできることはやりきったので悔いはない。一方の「デル・ジェズ」は自分の出したい音のイメージをもとに音色をつくって進まなくてはならないので、これまでの経験が活かせる。これから一緒にどんな音楽を作っていけるかとても楽しみです。

――レコーディングではちょうど2022年1月に発売された『J.S.バッハ…無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&パルティータ（全曲）から「チャールズ・リード」に切り替わりましたね。6月には最新アルバム『ブラームス…ヴァイオリン・ソナタ集』が発表されましたが：

新しい楽器を手にして1年もたないうちに、ヴァイオリニストにとってバイブル的な存在であるバッハの偉大な作品と（しかも全曲録音で）対峙するのはかなりハードでした。でも今回は時間も経過してから録音に臨むことができたので、手応えを感じています。

今回の公演に寄せて：

――さて、来年2月に開催されるケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団の

公演に諏訪内さんも出演されますが、とても歴史のあるオーケストラで、マーラーの交響曲やR・シュトラウスの交響詩のいくつかを世界初演している名門だとか。

確かブラームス作曲のヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲も初演されていますね。それらのレガシーがとても豊かに受け継がれている楽団で、私も本拠地のケルンを含めて何度も共演しています。レパートリーも幅広くて、ハンガリーの現代作曲家エトヴェシュの書いたヴァイオリンとオーケストラのための作品（※「セブン」）「コロムビア宇宙飛行士への追悼」なども一緒にしました。

――2月の公演では、まさに1904年マーラー自身の指揮によって初演された交響曲の第5番と、前半ではケルン生まれの作曲家ブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番が披露される予定です。旋律の美しさに加えてヴァイオリンの

華やかな技巧が散りばめられた同曲は彼の代表作であり、1996年に発売された諏訪内さんの記念すべきデビュー・アルバムのメイン・トラックでもありましたね。

ブラームスと同時代に活躍しつつもシェーンベルクが「十二音技法」を確立した20世紀初頭まで健在で、ロマン派を貫いたブルッフの作品だけあつてその伝統がそこかしこに息づいている。デビュー当時も既に相当弾き込んでいた曲ですが、あれから長い年月が過ぎて私の捉え方も、大きく変化しているの、それが反映された演奏になるはず。これまで辿ってきた道のりに想いを馳せると感慨深いのですが、誰しも後戻りはできないので前に進むのみですね。ぜひご期待ください。

――1999年の終わり頃からパリに拠点を置かれて演奏活動を展開されていますが、2025年はどんな年になりそうですか？

新しい出会いをいつも歓迎する一方で、これは、と思った人との関係は来年も大切にしたい。2月に大阪で演奏できるのが今から待ち遠しいです。本当にザ・シンフォニーホールは素晴らしい響きとあたたかいお客さんの印象は、いつまでも心に深く刻まれて忘れられないものなのです！

（取材文 東端哲也）

【指揮】サカリ・オラモ 【ヴァイオリン】諏訪内晶子
【管弦楽】ケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団

※都合により当初発表の指揮者から変更になりました。

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 op.26
マーラー：交響曲 第5番 嬰ハ短調

2025.2/11(火・祝) 3:00PM

S 22,000円 A 19,800円 B 15,400円(全席指定 税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

単公演 シンフォニア会員先行：7/25(木) 一般発売：7/28(日)



ピアノ ゲルハルト・オピッツ

正統派の巨匠がいざなう
ベートーヴェン、リストの世界

1953年ドイツ生まれで現代を代表するピアニストのゲルハルト・オピッツ。彼の指先が鍵盤に触れると、そこから流れでる音楽にはモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトらが生きていたヨーロッパの息吹が伝わってくるように思えてならない。古き良き時代の薫り高い雰囲気、今に伝えてくれる数少ない巨匠。オピッツはそんな希有な存在といえるのではないだろうか。

はやくから頭角を現したオピッツにとって、唯一無二の恩師が往年の名手ヴィルヘルム・ケンプだった。リスト、ベートーヴェンらのピアノニズムの流れを汲み、ピアノ以外に作曲もこなす音楽家で、ベートーヴェンなどの演奏は今なお輝きを

[ピアノ]ゲルハルト・オピッツ

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第3番 ハ長調 op.2-3 / ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調 op.57「熱情」 / フランツ・リスト：巡礼の年 第2年「イタリア」S161/R10b 1.婚礼 2.物思いに沈む人 3.サルヴァトーレ・ローザのカンツォネッタ 4.ペトラルカのソネット第47番 5.ペトラルカのソネット第104番 6.ペトラルカのソネット第123番 7.ダンテを読んで・ソナタ風幻想曲

2024.11/2(土) 2:00PM

全席指定 S 8,000円 A 6,000円(税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

(文 伊藤制子)

放つ。オピッツはケンプの薫陶を受け、その演奏に磨きをかけ、卓抜とした表現力と繊細さを備えたピアニストとして成長を遂げたのである。

ケンプのマスタークラスで出会ったのは後に妻となるピアニストの洋子夫人。以来、オピッツは音楽家としての親戚家として、コンスタンスに來日しており、コロナ禍で外來演奏家の來日が難しい時期にも、我が国に音楽を届けてくれたひとりであった。ザ・シンフォニーホールにもしばしば出演しており、一昨年来日公演で披露したベートーヴェンとシューマンで関西のファンを虜にしたオピッツ。11月2日、再び來日し、リサイタルを開催する。

幅広いレパートリーを誇るオピッツだが、今回のプログラムは彼の十八番でもあるベートーヴェンとリストというまさに今もとても聴きたい曲が選曲されている。ベートーヴェンの初期のソナタ第3番と第23番「熱情」が取り上げられるが、ベートーヴェンの実験性も感じさせる「熱情」にはとりわけ期待がかかる。そしてプログラムのもうひとつの柱が、リストである。

《巡礼の年》第2年「イタリア」はリストがイタリア・ルネッサンスの芸術に触れたことで生まれた傑作である。彼が敬愛した詩人ペトラルカにまつわる3曲のソネット、そ



名曲が放つエネルギーとドラマを
鋭い演奏で存分に味わう

ドイツの名門オーケストラ、フランクフルト放送交響楽団が、今、欧米で目覚ましい活躍を遂げる指揮者で、2021年より音楽監督を務めるアラン・アルティノグルとともに來日する。

迎えるソリストは、2021年第18回シヨパン国際ピアノコンクール優勝者、フランス生まれカナダ育ちの中国人ピアニスト、ブルース・リウ。ザ・シンフォニー・ホール舞台にもたびたび立ち、名だたる指揮者、オーケストラとともに、これまでラフマニノフの2番、シヨパンの2番というピアノ協奏曲の名作を披露してきた。

今回リウが演奏するのは、ピアノのための王道レパトリリーの一つ

大和証券グループ Presents

[指揮]アラン・アルティノグル [ピアノ]ブルース・リウ

[管弦楽]フランクフルト放送交響楽団

ワーグナー：楽劇「ニュルンベルクのマイスター・ジンガー」より第1幕への前奏曲

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op.73「皇帝」

ムソルグスキー（ラヴェル編曲）：組曲「展覧会の絵」

2024.10/16(水) 7:00PM

全席指定 S 26,400円 A 22,200円 B 18,700円(税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

スク、時にユーモラスな音楽描写、ロシア音楽ならではの重厚なサウンドと、ラヴェルならではのフランス的な色彩感覚が、フランスに生まれ学んだアルティノグルとフランクフルト放送交響楽団の絶妙なコンビネーションで、緻密に描き上げられることだろう。楽団が培ってきたダイナミックかつ生きた表現にも期待できそうだ。

世界で注目される鋭い指揮者、若手ピアニストと、1929年創設の名門オーケストラによる競演を、多彩かつ大スケールの名曲で堪能できる、聴き逃せない公演だ。

(文 高坂はる香)



スペシャル・ゲスト
「テノール」
錦織 健

——マエストロは日本とも縁が深く、1980年代に民音の指揮者コンクール（現・東京国際音楽コンクール）にも入賞しています。指揮者故小澤征爾さんとも交流があったそうですが、彼から学んだ一番大切なことは何ですか。

コンクールでは、小澤さんが審査員でした。その後、手紙を書き、彼から返事をいただいた時は、本当に驚きました。当時、学生だった私は小澤さんに招かれ、米国のタンゲル

——前回はジルベスター&ニューイヤーコンサートに出演されました。その時に感じた印象を教えてください。

故郷ウクライナは、戦争の真っ最中でしたが、お客様が温かく受け入れてくれて、驚くほど深く音楽を聴いてくれたのが印象に残っています。また、ホール内の音響もスタツプも素晴らしいです。特に、2024年1月1日のコンサート中に地震の揺れを体験し、忘れられない特別な公演になりました。被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

——今回の公演の注目点をお聞かせください。

ビゼー、ブッチェーニといったオペラの名曲を聴いて頂きたいと思い、ウクライナ国立歌劇場のトップクラスの手であるソプラノのリリア・グレヴツォヴァ・メゾ・ソプラノのアングジェリーナ・シヴァチカを連れて行きます。また、フィンランドの魂と言われる国民的な曲であるシベリウスの交響詩「フィンランディア」。この曲には強い思いがあります。当時のフィンランドは、今の私達の状況と似ており、大切に演奏したいと

——改めてマエストロにお聞きしたいです。人間にとってなぜ音楽は必要なのでしょう。

音楽は、美しい人生をもたらすと信じています。言語や国籍など

——歌劇場では普段、どのような活動を展開していますか。

ご承知の通り、酷い状況ではあるんですが、歌劇場は現在でも木、金、土、日曜と公演を実施していて、毎回多くの人が足を運び、満席になることもあります。人々が、この厳しい状況の中でいかに音楽を必要とし、人生の楽しみを求めているのかが、わかります。そして、我々音楽家も、自分たちが必要とされていると感じるのです。楽団は、国内最大の規模で、レベルもトップクラスです。しかし、実は、戦争前に約150人だった楽団員が、今では90人ほどになってしまいました。女性はそのなかを連れて国外に避難したり、男性のなかには軍隊に参加した人もいます。亡くなった人もいます。歌劇場を離れていったメンバーが再び戻ってくるのを祈っています。

——日本の聴衆の皆さんにメッセージをお願いします。

音楽好きな皆さんにぜひ足を運んで頂きたい。特に新春に向けての公演なので、平和と幸せをお届けしたいです。私たち楽団員にとって、特に大切なのは平和。コンサートを通じてそのメッセージを伝えられればと思っています。



「メゾ・ソプラノ」
アンジェリーナ・シヴァチカ
「ソプラノ」
リリア・グレヴツォヴァ

（取材・文 青木さやか）
（通訳 高島まき）

ザ・シンフォニーホール ジルベスターコンサート2024

【指揮】ミコラ・ジャジュラ 【スペシャル・ゲスト/テノール】錦織 健★
【ソプラノ】リリア・グレヴツォヴァ 【メゾ・ソプラノ】アンジェリーナ・シヴァチカ
【管弦楽】ウクライナ国立歌劇場管弦楽団

ブッチェーニ：『トスカ』より「妙なる調和」★/ブッチェーニ：『ラ・ボエーム』より「私の名はミミ」/ブッチェーニ：『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」★/モーツァルト：『魔笛』序曲、「なんと美しい絵姿」★/サルトリ：タイム・トゥ・セイ・グッバイ（君と旅立とう）★/ヴェルディ：『ドン・カルロ』より「むごい運命」 ほか

2024.12/31(火) 4:00PM

S 12,000円 A 9,000円 B 6,000円 (税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール 協力：旭酒造株式会社

シンフォニア会員先行：7/25(木) 一般発売：7/28(日)

ザ・シンフォニーホール ニューイヤーコンサート2025

【指揮】ミコラ・ジャジュラ 【スペシャル・ゲスト/テノール】錦織 健★
【ソプラノ】リリア・グレヴツォヴァ 【メゾ・ソプラノ】アンジェリーナ・シヴァチカ
【管弦楽】ウクライナ国立歌劇場管弦楽団

レハール：『微笑みの国』より「君は我が心の全て」★/J.シュトラウス2世：「こころもり」序曲/J.シュトラウス2世：ワルツ「美しく青きドナウ」/ブッチェーニ：「ジャンニ・スキッキ」より「私のお父さん」/J.シュトラウス2世：ホルカ「雷鳴と稲妻」/オッフェンバック：『ホフマン物語』より「ホフマンの舟唄」 ほか

2025.1/1(水・祝) 3:00PM

S 12,000円 A 9,000円 B 6,000円 (税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール 協力：旭酒造株式会社

シンフォニア会員先行：7/25(木) 一般発売：7/28(日)

苦境を乗り越え、世界に癒しを届ける **ウクライナ国立歌劇場管弦楽団**

年末の聴き納めと、年始の聴き初めはザ・シンフォニーホールで！

The Symphony Hall

SILVESTER CONCERT

2024
12/31
ジルベスターコンサート

NEWYEAR CONCERT

2025
1/1
ニューイヤーコンサート

新しい年の幕開けを華麗に彩る2日間



【指揮】

ミコラ・ジャジュラ
Mykola Diadiura

Interview

公演プログラム			…紅組	…白組	…紅白混声
下林 一也	ロッシーニ	歌劇「セヴィリアの理髪師」“私は町の何でも屋”			
四方 典子	ロッシーニ	歌劇「セヴィリアの理髪師」“今の歌声は”			
西田 真由子 秋本 靖仁	ドニゼッティ	歌劇「愛の妙薬」“ラララの二重唱”			
小餅谷 哲男	ドニゼッティ	歌劇「愛の妙薬」“人知れぬ涙”			
田中 友輝子	ビゼー	歌劇「カルメン」“セギディリヤ”			
山際 きみ佳 近藤 勇斗 中野 嘉章 野々村 瞳 伊藤 絵美	ビゼー	歌劇「カルメン」五重唱“うまい話がある”			
休憩					
畑 友実子 大賀 真理子	プッチーニ	歌劇「蝶々夫人」“花の二重唱”			
水口 健次 伊藤 友祐	ヴェルディ	歌劇「ドン・カルロ」“我らの胸に友情を”			
堀口 莉絵	ヴェルディ	歌劇「トロヴァトーレ」“炎は燃えて”			
西尾 岳史	ヴェルディ	歌劇「椿姫」“プロバンスの海と陸”			
高嶋 優羽 水野 智絵 十合 翔子	R・シュトラウス	歌劇「薔薇の騎士」“第三幕の三重唱”			
松本 薫平	プッチーニ	歌劇「トスカ」“星は光りぬ”			
斉藤 言子	カタラーニ	歌劇「ラ・ワリー」“さよなら、故郷の家”			
田中 勉	ヴェルディ	歌劇「仮面舞踏会」“お前こそ心の汚すもの”			

イタリアで学んだ本格派・松本薫平(ト)は、プッチーニ「星は光りぬ」を表情豊かに織り上げる。大阪音楽大学教授・田中勉(B)は、ヴェルディ「お前こそ心の汚すもの」で、ベルカント・オペラの真骨頂を存分に示してくれることだろう。

昨年から新企画「男女混声」が今年も！審査には来場者全員が参加！！

他にも、男女それぞれの二重唱や三重唱など聴きどころ満載だが、やはり注目は昨年から新企画である男女混声。

優美な舞台姿と表現力を備えた西田真由子(S)は、高名な合唱指導者でもある実力派・秋本靖仁(ト)と、

ドニゼッティ「ラララの二重唱」で華々しく共演する。

今年8月の関西二期会「カルメン」でも注目が集まる野々村瞳(S)と、19年からイタリアを拠点に活躍中の山際きみ佳(MS)、オペラやオケで多くのソロを務める伊藤絵美(MS)。歌唱力だけでなく軽妙なトークでも評価の高い中野嘉章(B)と、劇団四季の元子役だった演技派・近藤勇斗(ト)は、ビゼー「カルメン」の五重唱でゴージャス極まる饗宴を繰り広げる。

そんな大盛況間違いなしな歌合戦の審査には、今年も聴き手の皆さんが加わるのでぜひ貴重な一票を！！

(文 渡辺謙太郎)

[紅組] 斉藤言子、高嶋優羽、西田真由子、野々村瞳、畑友実子、水野智絵、四方典子、伊藤絵美、大賀真理子、十合翔子、田中友輝子、堀口莉絵、山際きみ佳

[白組] 田中 勉、秋本靖仁、小餅谷哲男、近藤勇斗、松本薫平、水口健次、伊藤友祐、下林一也、中野嘉章、西尾岳史

[指揮] 栗辻 聡 [管弦楽] 大阪交響楽団

2024.12/26(木) 6:30PM

全席指定 S 8,800円 A 7,700円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール [共催] 公益社団法人 大阪交響楽団

シンフォニア会員先行：7/25(木) 一般発売：7/28(日)



年末の豪華極まる風物詩「紅白オペラ歌合戦」が7度目の開催！

関西にゆかりの深い歌手が、男女で紅白に分かれて傑作オペラ・アリアを歌い競う。年末の風物詩「紅白オペラ歌合戦」が7度目の開催を迎える！

歌手陣は男女計23名が登場予定。出演予定者と聴きどころは以下の通りだ。

まずは紅組。

才色兼備・四方典子(S)は、ロッシーニ「今の歌声は」を清冽に歌唱。

国体で独唱を務めたベテラン・田中友輝子(MS)が優雅に描くのは、ビゼー「セギディリヤ」。

マネジメントや後進の指導にも力を注ぐ堀口莉絵(MS)は、ヴェルディ「炎は燃えて」を情熱的に歌い上げる。

神戸女学院大学の元学長・斉藤言子(S)は、カタラーニ「さよなら、故郷の家」で究極のロマンティズムを彫琢するはずだ。

続いては白組。

第26回松方ホール音楽賞に輝いた注目の若手・下林一也(B)が颯爽と歌うロッシーニ「私は町の何でも屋」。

イタリア・ミラノで研鑽を積み120もの演目のオペラ公演に主演する小餅谷哲男が、ドニゼッティ「人知れぬ涙」をしつとりと情感豊かに歌い上げる。

「万人の第九」の合唱指導者・西尾岳史(B)はヴェルディ「プロバンスの海と陸」で、昨年も聴かせてくれた知的な歌唱力に今年も期待大。

紅組

★…キャプテン (※五十音順)



[ソプラノ]
斉藤 言子★



[ソプラノ]
高嶋 優羽



[ソプラノ]
西田 真由子



[ソプラノ]
野々村 瞳



[ソプラノ]
畑 友実子



[ソプラノ]
水野 智絵



[ソプラノ]
四方 典子



[メゾソプラノ]
伊藤 絵美



[メゾソプラノ]
大賀 真理子



[メゾソプラノ]
十合 翔子



[メゾソプラノ]
田中 友輝子



[メゾソプラノ]
堀口 莉絵



[メゾソプラノ]
山際 きみ佳

白組

★…キャプテン (※五十音順)



[バリトン]
田中 勉★



[テノール]
秋本 靖仁



[テノール]
小餅谷 哲男



[テノール]
近藤 勇斗



[テノール]
松本 薫平



[テノール]
水口 健次



[バリトン]
伊藤 友祐



[バリトン]
下林 一也



[バリトン]
中野 嘉章



[バリトン]
西尾 岳史

9 Sinfonia

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター ▶電話/06-6453-2333 ▶WEB/https://www.symphonyhall.jp Sinfonia 8



ポップオペラとビッグ・バンドの
新境地！

公演を重ねる度に、ザ・シンフォニーホールの秀逸な音響とシンクロを深めながら、持ち前のゴージャスでテクニカルなサウンドに磨きをかけてゆくザ・シンフォニーホール・ビッグ・バンド(TSHBB)。

2016年にトランペット奏者の菊池寿人を中心に結成されたこのバンドには、ソロやバンドで活躍する国内有数の名手16名が集い、ジャズにとどまらない広範なレパートリーで聴き手を魅了し続ける。

あつた。ちょうどコロナ禍の時期と重なっており、彼女の清らかな歌声に心癒やされた聴衆は多かったのではないだろうか。砂川は、人間の声の素晴らしさ、気高さを再認識させてくれる数少ないソプラノの一人といっても過言ではない。そしてピアノ・リサイタルでも隔々まで美しく響くザ・シンフォニーホールの音響は、彼女の素晴らしいリサイタルを楽しむにも絶好の場所である。12月20日の砂川涼子の待望のリサイタルのテーマは、「クリスマスの贈り物」。ピアノは仲田淳也である。

一年でもっとも静謐な気分になることのできるクリスマス。砂川が厳選した諸作品は、聖なる夜を楽しむにはぴったりの曲ばかりである。グノーの名作《アヴェ・マリア》とともに歌われるルイジ・ルツィの《アヴェ・マリア》は透明な美しさに満ちた一曲。さらにモーツァルトの《アヴェ・ヴェルム・コルプス》に加えて、A.L. ウェッバーの《ピエ・イエズ》やリー・ハーラインの《星に願いを》といった大人も子供も親しめる曲がラインナップされており、クリスマスにの明るく朗らかな気分を盛り上げてくれる

[演奏]The Symphony Hall Big Band
[スペシャルゲスト]藤澤ノリマサ (シンガー・ソングライター)

ダッタン人の踊り／希望の歌～交響曲第九番～／Yes I do -キスはまた終わってない-／brightness (NHKラジオ深夜便「深夜便のうた」)／Fly me to the moon／Smoke get's in your eyes／Volare／シング・シング・シング ほか

2024.12/16 (月) 7:00PM
全席指定 7,500円 18歳以下3,300円(税込)
[お問い合わせ]大阪アートエージェンシー 06-6372-4583
[主催]ザ・シンフォニーホール
シンフォニア会員先行：7/25 (木) 一般発売：7/28 (日)

世の中だからこそ、大切にすることによって幸せになれる。笑顔の先には、希望という明るい未来が待っている」というメッセージが込められた「希望の歌」交響曲第九番。これらの作品は、シンセサイザー主体でビート感の強いサウンドに乗せた形で高らかかつ歯切れよく歌われているが、今回はブラス、ピアノ、ベース、ドラムで構成されるTSHBBとの共演。巧みで驚きにあふれたアレンジが随所に施されることで、藤澤の美声がいかなる輝きと深みを増すか、本当に楽しみだ！

(文 渡辺謙太郎)



ピアノ 仲田淳也

あつた。ちょうどコロナ禍の時期と重なっており、彼女の清らかな歌声に心癒やされた聴衆は多かったのではないだろうか。砂川は、人間の声の素晴らしさ、気高さを再認識させてくれる数少ないソプラノの一人といっても過言ではない。そしてピアノ・リサイタルでも隔々まで美しく響くザ・シンフォニーホールの音響は、彼女の素晴らしいリサイタルを楽しむにも絶好の場所である。12月20日の砂川涼子の待望のリサイタルのテーマは、「クリスマスの贈り物」。ピアノは仲田淳也である。

一年でもっとも静謐な気分になることのできるクリスマス。砂川が厳選した諸作品は、聖なる夜を楽しむにはぴったりの曲ばかりである。グノーの名作《アヴェ・マリア》とともに歌われるルイジ・ルツィの《アヴェ・マリア》は透明な美しさに満ちた一曲。さらにモーツァルトの《アヴェ・ヴェルム・コルプス》に加えて、A.L. ウェッバーの《ピエ・イエズ》やリー・ハーラインの《星に願いを》といった大人も子供も親しめる曲がラインナップされており、クリスマスにの明るく朗らかな気分を盛り上げてくれる

[ソプラノ]砂川涼子 [ピアノ]仲田淳也

《クリスマスの贈り物》
ルツィ：アヴェ・マリア／グノー：アヴェ・マリア／A.L.ウェッバー：ピエ・イエズ／モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス／リー・ハーライン：星に願いを／ロルフ・ラヴランド：ユー・レイズ・ミー・アップ／グノー：歌劇『ファウスト』“宝石の歌”／ブッチーニ：歌劇『ラ・ボエーム』“私が街を歩けば” 他

2024.12/20 (金) 7:00PM
全席指定 4,400円(税込)
[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催]ザ・シンフォニーホール
シンフォニア会員先行：7/25 (木) 一般発売：7/28 (日)

イタリアオペラを中心に、数々の名唱を聞かせてきた砂川だが、今回はこの1月に初役で高い評価を得たグノーの《ファウスト》より名アリア《宝石の歌》、そして得意とするブッチーニの《ラ・ボエーム》よりもゼッタのアリア《私が街を歩けば》が選曲されている。いずれもオペラの舞台にひけをとらない臨場感たっぷりの歌唱を楽しめるにちがいない。12月は2024年のしめくくりとなる時期である。ディーヴァの清らかな声の「贈り物」を受け取り、心新たに、2025年を迎えたい。

(文 伊藤制子)



ゲスト歌手 ビリー・キング

音と映像が織り成す感動! 本場ハリウッドの名門が待望の再来日!!

2023年1月のニューイヤーコンサートの感動が、さらなる感動と共に再び! エンターテインメントの本場アメリカならではのゴージャスなサウンドとパフォーマンスを誇るハリウッド・フェスティバル・オーケストラ(以下HFO)が大阪に帰ってくる。

音楽プロデューサーのジョン・ジャッティアーノを中心に1990年にアトランタで結成されたHFOは、高度な演奏技術と幅広いレパートリーを備えた「スター・オーケストラ」と謳われている。

その活動コンセプトと魅力というのが、①本場のオーケストラの迫力のサウンド ②誰もが聴いたことのある名曲や名旋律を多数演奏

③生演奏に乗せてスクリーンに実際の映像も上映するという「ハリウッド」の名前にふさわしい三本柱。今回で6度目の来日となるが、チケットは各地で完売続出で、昨年の大阪公演も聴き手を心ゆくまで魅了し、会場は万雷の拍手に満ちあふれたものだった。

今回も、彼らの十八番である映画音楽をたっぷりと披露予定だというから本当に楽しみである。

例えば「風と共に去りぬ」「ロッキーマン」「幕情」といった懐かしの名画音楽でノスタルジーや興奮を刺激。他にも、昨年の没後30年ということもあって人気が再燃している名女優オーディリー・ヘプバーンの代表作「ローマの休日」「ティファニーで朝食を」「シャレード」などを彩った名旋律が多数。

そして、喜劇王チャーリー・チャップリンが、平和と、風刺と、博愛を巧みに織り交ぜて作り上げた傑作映画「モダン・タイムズ」「独裁者」などの誰もが知る音の花束まで。

これらの名曲を演奏する際にはスクリーンで映画の名シーンを観ることができるが(一部)、あくまで主役になるのはHFOのサウンド。生演奏がBGMと化さないように心がけているという彼らのプロフェッショナルリズムを今回も存分に味わえそう。

その指揮および編曲を手がける

[指揮]ロイド・バトラー [ゲスト歌手]ビリー・キング
[管弦楽]ハリウッド・フェスティバル・オーケストラ

《懐かしの名作》風と共に去りぬ/幕情/ロッキーマン 《ハリウッド大作》インディ・ジョーンズ/ミッション・インポッシブル/ジュラシック・パーク/タイタニック 《オードリー・ヘップバーンの世界》ローマの休日/シャレード/「ティファニーで朝食を」より「ムーン・リヴァー」 《チャップリン名曲集》「モダン・タイムズ」より「スマイル」/「独裁者」より「ハンガリー舞曲第5番」 ほか予定

2025.1/10(金) 7:00PM

全席指定 S 10,000円 A 8,000円(税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

シンフォニア会員先行: 7/25(木) 一般発売: 7/28(日)

のは、前回同様にロイド・バトラー。欧米の名門オケを数多く指揮しつつ、オペラやミュージカルなどの第一線でも活躍する実力派なので、今回も柔軟で洗練されたタクトで名曲に次々と新たな命を吹き込むことだろう。

今回はまた、7歳からステージに立ち続けるエンターテインメントの申し子ビリー・キングがゲスト歌手として出演。昨年に続く登場で、HFOの来日公演に過去5回も出演している彼の変幻自在の美声とパフォーマンスに大いに期待しよう!!

(文 渡辺謙太郎)



指揮 喜多弘悦



2024年の年末を彩るビッグバンドとギospelの超豪華共演!

オオサカ・シオン・ウィンド・オーケストラ(SHION)とザ・シンフォニー・ホールの共同企画で、2022年7月からスタートしたザ・シンフォニー・ホール・スーパーブラス(TSHSB)。SHIONの名手を中心に、関西の第一線で活躍する精鋭も多数集い、総勢100名前後のミュージシャンが一堂に会するこの「ゴージャスな宴は、度接したらすぐさま虜になる聴き手が続出している。」その迫力の大サウンドは通常のオーケストラよりも2〜3割増しになり、しかも輝かしいプロジェクションマッピングと共に繰り広げられるというのだから、いかに贅沢で圧巻なひとときか、未聴の方も想像の翼が容易に広がるに違いない。

そんな当シリーズを指揮するのは、ザ・シンフォニー・ホール取締役セネラル

マネージャー・音楽監督の喜多弘悦。中学から高校時代にかけてブラスバンドの打楽器奏者を務めた後、アメリカの名門ジュリアード音楽院に留学し、打楽器だけでなく、指揮や音楽理論も学んだ本格派だ。帰国後に学生とプロ奏者の混成ビッグバンドを立ち上げたが、この時の同僚だったプロ奏者たちが、TSHSBの結成と運営に尽力してくれたことで現在の大成功に繋がっているというから素晴らしい。

そんなTSHSBが、2024年の年末に注目のスペシャルコンサートを開催。共演は、日本を代表する「ゴスペル歌手&教育者で、喜多の長年の盟友でもある池末信が率いるゴスペルグループ、THE SOULMATICOS(ザ・ソウルマティックス)で、日本だけでなく、アメリカ、中国、韓国、オーストラリアなどでも幅広く活躍する実力派集団だ。



THE SOULMATICOS デイレクター 池末 信

楽曲の多くは、アメリカの名門バークリー音楽大学で作曲と指揮を学んだ池末が手がけており、過去にはジャネット・ジャクソンやデヴィッド・ボウイなどの大スター歌手とも圧巻の

パフォーマンスを繰り広げてきたというから凄い。

そんな池末の薫陶を受け、「黒人の声を持つ新しい日本人のグループ」として高く評価されるTHE SOULMATICOSと、我がTSHSBの豪華共演で贈る今回の公演。予定演目には、「クリスマスキャロル」「聖者の行進」「翼をください」「天使にラブソングを」などの誰もが知る名曲が数多く並ぶ。年末の華やぎにもピッタリなこれらのナンバーが、ゴスペルとビッグバンドにしかない新しいアレンジをまとい、さらにプロジェクションマッピングも加わる「一期」会の感動をくれぐれもお聴き逃しなく!

(文 渡辺謙太郎)

[指揮]喜多弘悦 [演奏]The Symphony Hall Super Brass
[ギospel]池末 信×THE SOULMATICOS

クリスマス・キャロル/聖者の行進/翼をください/「天使にラブソングを」より「Joyful, Joyful」「Ain't no mountain high enough」「Oh Happy Day」 ほか

2024.12/29(日) 3:00PM

全席指定 S 6,600円 (S 高校生以下(4~18歳) 3,300円) A 4,400円(税込)

※4歳のお子様からご入場いただけます ※プロジェクションマッピング付き

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

シンフォニア会員先行: 7/25(木) 一般発売: 7/28(日)

—— 今回の「熱狂コンチェルト2025」では、佐藤さんはシューマンのチェロ協奏曲、南さんはブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番を弾かれますが、聴き所を教えてください。

南 シューマンのチェロ協奏曲、ブルッフのヴァイオリンの協奏曲第1番の2曲が素晴らしい！

—— 今回の「熱狂コンチェルト2025」では、佐藤さんはシューマンのチェロ協奏曲、南さんはブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番を弾かれますが、聴き所を教えてください。



[指揮] 現田茂夫 [ヴァイオリン] 南 紫音 [チェロ] 佐藤晴真
[ピアノ] 上原彩子 [管弦楽] 日本センチュリー交響楽団

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 op.26
シューマン：チェロ協奏曲 イ短調 op.129
ブラームス：ピアノ協奏曲 第1番 二短調 op.15

2025.2/24 (月・休) 2:00PM

全席指定 S 7,700円 A 6,600円 B 5,500円 (税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

シンフォニア会員先行：7/25 (木) 一般発売：7/28 (日)

が、以前雑誌の表紙になられた時とても素敵だったのも印象的でした。あらゆる意味で「非の打ち所のない」奏者ですね！



—— ピアニストの上原彩子さんとも一緒に出演ですが、上原さんについてはいかがですか。

南 憧れの音楽家ですね。上原さんの2002年のチャイコフスキー国際コンクール優勝は、大きな話題になりましたが、上原さん

それそれぞれの楽器の特性を聴き比べていただきたい

つ、正確さを備えたピアニストでいらつしやうと思います。一緒にできて、大変光栄です。



[管弦楽] 日本センチュリー交響楽団

[ヴァイオリン] 南 紫音



[チェロ] 佐藤晴真



[ピアノ] 上原彩子



熱狂コンチェルト2025

南 紫音、佐藤晴真が語る協奏曲の魅力

Interview

2005年ロンドンティボー国際コンクールで第2位を受賞して以来、ソロ、室内楽でも活躍中のヴァイオリンの南紫音。ミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において2019年に日本人として初めて優勝し、一躍国際的に注目を集めた佐藤晴真。次代を担う俊英の二人の語る言葉の端々には、若さの輝き、未来を見据えた力強さが感じられた。2025年2月24日開催のザ・シンフォニーホールの好評企画「熱狂コンチェルト」。南、佐藤、そしてピアノの上原彩子が加わり、華麗な饗宴が実現する。

—— お二人は2019年にハノーファーで初めてお会いになり、既に共演もなさっているんですね。南 佐藤さんの演奏には、没入感とバランス感覚があり、濃密な音楽をつくれる素晴らしいチェリストだと思います。もともとチェロの響きはとても好きなのですが、とくに室内楽に取り組んでいると、チェロを弾いてみたいと感じますね。佐藤 ぼくは兄に続いて4歳半からヴァイオリンを習い始めました。6歳の発表会でチェロの中木健二さんの演奏を聴き、魅了され、チェロに転向したんです。南さんはすぐれたヴァイオリニストです。



© 鈴木久美子



世界最高峰の男声ア・カペラグループがレガシーを届ける

ア・カペラ・アンサンブルの草分け、かつ世界最高峰に位置する「ザ・キングズ・シンガーズ」。1968年、英国・ケンブリッジ大学のキングズ・カレッジの聖歌隊員らによって結成された。メンバーを入れ替えながら半世紀以上、卓越したハーモニーで多彩なレパートリーを聴かせ、ウィットに富んだステージパフォーマンスを繰り広げてきた。ザ・シンフォニーホールでの公演は2022年以来、2年ぶりとなる。

デビュー以来、カウンターテナー2人、テナー1人、バリトン2人、バス1人の計6人の編成を保ってきた。男声の魅力と言えば、豊かな倍音による、美しいハーモニー。ザ・キングズ・シンガーズのそれは、バランスの

取れた編成による、交じり気のない透き通った響きだ。クラシック、民謡、ジャズ、ポップスとジャンルを問わない音楽を届けるには、時に声を使い分けて、歌詞に寄り添った表現を追求するが、揺るがない基礎があればこそ曲の魅力を際立たせる。こだわりの編曲の妙も、耳なじみの曲にまで新たな光を当てる。

今回の来日公演のテーマは「レガシー(音楽の遺産)」。英国のルネサンス音楽から、ビートルズ、ディズニーの名曲と、幅広い年代をカバーする。

ルネサンス音楽では昨年、没後400年を迎えたイングランド・エリザベス朝最大の作曲家、ウィリアム・バードや、トマス・ウィールクスを取り上げる。「英国音楽の父」バードは、純粋な感情のあふれた宗教曲をはじめ、世俗曲にも多くの曲を残した。多くの声楽曲を書いたウィールクス共々、ザ・キングズ・シンガーズが、自身のルーツとも言える英国音楽をいかに表現するか。20世紀を席巻したビートルズにたどり着く歴史までも感じさせてくれるのか、大いに期待したい。

一方、ディズニーの名曲はビノキオ、白雪姫、ライオン・キングなど日本でもおなじみで、人気を集めるものばかり。世界中でさまざまな編成、編曲で披露され、音楽への関心の入り口にもなってきた曲の数々が、どんな

[コーラス] ザ・キングズ・シンガーズ ※やむを得ず曲目等が変更になる事がございますので予めご了承下さい。

《ディズニーの名曲たち》「ライオンキング」より「愛を感じて」／「ビノキオ」より「星に願いを」／「リメンバー・ミー」(原題:Coco)より「リメンバー・ミー」／「101匹わんちゃん」より「クルエル・ド・ヴィル」／「アラジン」より「アリス・アリス」／「白雪姫」より「いつか王子さまが」／「メリー・ポピンズ」より「スーパー・カリブラジリスティック・エクス・ピアドー・シャス」／「ダンボ」より「もし象が空を飛べたら」／「リロ&スティッチ」より「アロハ・エ・コモ・マイ」

《イギリス歌曲とビートルズの音楽》ウィリアム・バード「諸々の異邦人よ、主をほめまわす」／この心地よく楽しい五月／トマス・ウィールクス「おお主よ、われらが王に長き命を」／トゥーレの国、地誌の時代／ビートルズ(編曲:ボブ・チルコット)／ベニー・レイノ／ビートルズ(編曲:ビル・アイヴズ)／イエスタデイ／ビートルズ(編曲:ダリル・ランズウィック)／オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ ほか

2024.10/17(木) 7:00PM
全席指定 S 10,000円 A 8,000円 B 6,000円 (税込)
[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中

響きで私たちの耳を楽しませてくれるのだろうか。

ア・カペラ音楽の普及、発展に貢献してきたザ・キングズ・シンガーズは、作曲家にインスピレーションを与え、委嘱作品も生み出してきた。高い音楽性の影響を受けたアーティストやグループも多く、世界中で愛聴されている。さまざまな背景の人たちに音楽を提供し、先人の「遺産」を未来につなぐ。歴史を積み重ねてきたザ・シンフォニーホールの美しい極上の音響で、2年と間を置かず、再び彼らの活動に接することができる機会を吉としたい。

(文 毎日新聞大阪本社学芸部記者 最上聡)



祝！初来日から35年！名歌手ダルテーニャと日本のスターたちの夢の饗宴

あるときは威厳に満ちた王や神父、あるときはコミカルな道化役。ソプラノやテノールといった花形を支え、オペラをもち立てる役割を果たす低声の歌手は、舞台に不可欠の存在だ。オペラの黄金時代に活動してきたイタリア出身のバス歌手フランチェスコ・ダルテーニャはまさにそんな劇の要といってもよい歌手である。アッバード、ムーティ、メータら巨匠指揮者のもと、パヴァロッティ、ゲルベローヴァらとともに数々のイタリアオペラに出演してきたダルテーニャは、1989年にヴェローナ音楽祭の引越越し公演で初来日。以来、大の親日家として舞台、そして教育でも我が国で存在感を示してきた。1948年生まれだが、瑞々しい声と凛とした舞台姿を備えたダルテーニャが、来日から35年となる2024年12月24日、日本の人気歌手とともに記念コンサートを開催する。

出演はダルテーニャの愛弟子である樋口達哉、そして小川里美が名を連ねた。数々のオペラで主役を演じてきたテノールの樋口。ザ・シンフォニーホールでの「カウントダウンコンサート2022/23」で関西のファンを沸かせたのは記憶に新しい。小川は舞台映える容姿と深みのある声を駆使し、活動の幅を広げているソプラノだ。ブッチーニ生誕100年イヤーとも重なる年末の時期に、イタリアオペラの神髄を知る歌手たちによる華麗な饗宴が繰り広げられる。曲

[バス] フランチェスコ・ダルテーニャ
[ソプラノ] 小川里美 [テノール] 樋口達哉、秋川雅史
[ピアノ] 藤原藍子

ブッチーニ：歌劇『トスカ』より 妙なる調和
ブッチーニ：歌劇『トゥーランドット』より 誰も寝てはならぬ
ブッチーニ：歌劇『蝶々夫人』より ある晴れた日に
ヴェルディ：歌劇『リゴレット』より 女心の歌
ヴェルディ：歌劇『ドン・カルロ』より 一人寂しく眠ろう ほか

2024.12/24(火) 7:00PM
全席指定 S 8,800円 A 6,600円 B 4,400円(税込)
[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催] 一般社団法人GOSMAC／ザ・シンフォニーホール
シンフォニア会員先行：7/25(木) 一般発売：7/28(日)

目はおなじみの名曲をそろえたもので、ブッチーニの《トゥーランドット》より「誰も寝てはならぬ」、《蝶々夫人》より「ある晴れた日に」といった名アリアに加え、重唱も計画されているというから聞き逃さない。

さらに公演に華を添えるのが、《千の風になつて》で国民的な人気歌手となったテノールの秋川雅史である。「彼とは何度も共演していますが、研究熱心で、オペラにも大変意欲的です」(樋口)という個性豊かな秋川の出演で、コンサートはさらに盛り上がることだろう。24日といえばクリスマスイヴ。オペラ三昧の一夜に乞うご期待！

(文 伊藤制子)

ライト・シンフォニックコンサート

大人の贅沢

Vol.11

オーケストラをバックに
魅惑のポピュラー・ミュージックを歌う。



森崎 ウィン
MORISAKI WIN

Interview

© 鈴木久美子



藤野浩一 は気さくなマエストロ

「ライト・シンフォニックコンサート」は大阪交響楽団との人気コラボ企画で8月の公演がシリーズ第11回。今回は楽団メンバーによるポップスオーケストラの演奏で名曲をライト（気軽に）楽しもうという趣向です。指揮者の藤野浩一さんに抜擢されて、コンサート後半のメインを任されることになりました。藤野さんとは2020年にNHKの音楽番組で知り合ったのですが、それまで自分が持っていたオーケストラの重厚なイメージを覆す気さくなマエストロで、クラシックもポップスも同じ目線で語れる凄い人。共演を重ねて今ではすっかり意気投合して、一緒にアメリカのシヨウビジネスの本場ラスベガスのステージを目指そうよなんて誘ってくださる程の仲です。

—— 同番組を契機に近年はオーケストラをバックに歌う機会も増えたとか。

最初は力強い音の迫力に圧倒されたのですが、それを味方にさえできたら、とても気持ちよく歌えることに気が付いたんです。今回は藤野さんの編曲でゴージャスに生まれ変わった自分のオリジナル曲も皆さんに披露できると思うので、ご期待ください。

—— お茶の間での人気に加えて、映画から舞台まで幅広い活動を展開中ですが、特にミュージカルでの活躍が知られています。

ステージで演じつつ踊り、歌をライブで観客に届けることができると最高なんです。日本のミュージカル・シーンは新作上演にも積極的でファン層も拡大しているの、これからの盛り上げたいです。

いきたいです。

ベストソング・セレクションについて

—— 今回歌われるジャズのスタンダード・ナンバーも、もともとはミュージカルやレビュウ・ショーのために書かれた楽曲がほとんどですね。

ジャズとの出会いはフランク・シナトラの歌唱を聴いて心を掴まれたのがきっかけです。メロディだけじゃなく歌詞も、シンプルなのに凄く素敵なお歌を歌っていて憧れました。もちろんあの声には敵いませんが、自分も今後年齢を重ねるともう少し味がするのではないかと（笑）：そのための第一歩として！

—— アメリカ映画の主題歌からロックやソウルの名曲などのカバーも楽しみです。

映画や舞台のための曲はその背景にある物語やドラマなどを踏まえつつ、でも楽曲が持つノリやグルーブから受けるファーストインプレッションも大切にしたい。ヒット曲は本人のイメージが強烈でなかなか手強いのですが、僕が歌うならこうなる、という解釈で、皆さんに楽しんでいただけたら嬉しいです。

—— コンサートの前半には大阪響ポップスオーケストラによる「映

画音楽と北新地の思い出」演奏のコーナーもありますが、何か気になるナンバーはありますか？

地元を知り尽くした藤野さんだけに、その北新地の思い出的な部分にも大いに興味ありますが（笑）、個人的には映画『ミッシェン・イン・ポッシブル』のテーマが大好きなので、生のオーケストラ・サウンドで聴いてみたいです。

大阪は居心地のよい街

—— ザ・シンフォニーホールは今回が初登場になりますね？

はい。でも大阪は人との距離感が近くて、食べ物美味しいところとか出身のミヤマーの街とよく似ていてとても居心地がいいの

でよく来ます。行きつけの焼肉屋さんもありますよ。

—— では最後に公演を楽しみにしている皆さんにメッセージをお願いします。

ふだんクラシックのコンサートにはあまり足を運んだことがないという方や、本格的なクラシック・ホールで演奏を聴くのが初めてという方もぜひ！自分もかつては、ある種の「敷居の高さ」を感じていたのだからう気持ちもよくわかります。でもこの機会に、一緒にオーケストラの素晴らしい世界を旅しましょう。ザ・シンフォニーホールでお待ちしております！

（取材文 東端哲也）



【編曲・指揮】藤野浩一

【ゲスト】つづらのあつし

【編曲・指揮】藤野浩一 【ゲスト】森崎ウィン、つづらのあつし★
【管弦楽】大阪響ポップスオーケストラ

煙が目にしみる／ハリウッド万歳／アルフィー／ミッション：インポッシブル／シェルブールの雨傘／藤野浩一編：ストリップの名曲メドレー／ハーレム・ノクターン★／藤野浩一編：「飲み過ぎ」メドレー／森崎ウィン：Dear, Move out, My Place, Your Place ほか

※曲目はやむを得ない事情により変更になる場合がございます。

2024.8/24 (土) 2:00PM

全席指定 SS 10,000円 S 8,000円 A 6,000円 (税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】公益社団法人 大阪交響楽団／ザ・シンフォニーホール

発売中

特級グラント・コンチエルト 2024

三大ピアノ
コンチエルト 名曲選

© 鈴木久美子

『ピアノ』

古海行子

2022 ダブリン国際ピアノコンクール第2位

Interview

古海行子は、自然体のピアニストである。幼い頃から才能の誉れ高く、高松国際ピアノコンクールを日本人として初めて制した時は、まだ昭和音楽大学在学中だった。さらにシヨパン国際ピアノコンクールのセミファイナリスト、ダブリン国際ピアノコンクール第2位など常にピアノ界の話題をさらってきたが、柔和な笑顔と楚々とした雰囲気を持ち主だ。ただひとたびピアノの前に座ると、その集中力と風格を備えたスケール感のある演奏には目を見張るものがある。ザ・シンフォニーホールで8月30日に開催の「特級グラント・コンチエルト2024」に、森本隼太・田村響とともに出演する古海は、ラフマニノフの第2番の協奏曲を披露する。

——コンクール受賞歴を数多くお持ちの古海さんですが、コンクールとはご自身にとってどんな存在なのでしょう。

古海 コンクールは一流の審査員の先生たち、そして多くの聴衆に聴いていただけるのでとても有意義だと思います。コンクールの前と後とで、さらに成長ができる機会でもあります。シヨパン国際コンクールでは、少々のことには動じない強さも身につけることができました。

——ザ・シンフォニー

ホールで演奏するのは初めてですね。神奈川のご出身ですが、大阪の印象はいかがですか。

古海 今回、指揮者の藤岡幸夫さん、関西フィルとも初共演になりますので、ザ・シンフォニーホールで弾けることをほんとうに楽しみにしています。毎回リハーサルでは、ホールの空気を感じるようにしています。特に初めてのホールの場合は、ホールになじむのがとても大切ですね。

大阪でのリサイタル・デビューは2023年でした。大阪の聴衆の方々はとてもあたたかく迎えてくださり、反応もかえってきやすいので、大阪は安心できる場所なんです。今回の演奏会の後、可能なら観光したいと思っています。大阪名物のたこ焼きもぜひ食べたいですね！

——古海さんのラフマニノフの演奏を楽しみにしているファンの皆さんにメッセージをお願いします。

古海 まだまだ弾きたい曲はたくさんありますし、ピアニストとして音楽に真摯に向かい、作品の魅力を伝えていけるようになったら、と思っています。大阪での協奏曲・デビューは、私にとって初物づくしに

2022 ヘイスティングス国際協奏曲コンクール優勝



[ピアノ] 森本 隼太

2007 ロンドン・ライオン国際コンクール優勝



[ピアノ] 田村 響

ラフマニノフの魅力は旋律の美しさ、そして厳しさやシニカルさ

——今回ラフマニノフの名作である第2番を弾かれますが、ラフマニノフの魅力についてうかがえますか。

古海 この協奏曲は、ピティナ・ピアノ・コンペティションのコンチエルト部門で2016年に初めて弾きました。ロシア音楽はもともと好き

ザ・シンフォニーホール初登場！
今注目の俊英、
古海行子が弾くラフマニノフの第2番

し手の大きさが必要ですが、手の癖のようなものにうまくなじんでいくとさほど苦労せずに弾けます。

——協奏曲第2番以外のラフマニノフ作品では、どのような曲を手掛けてみたいですか。

古海 協奏曲の第3番は若いうちに挑戦したい曲ですね。そして第4番も魅力的な作品です。彼の協奏曲はオーケストラとピアノとの対話もとても巧みだと思っています。ソロ作品では、「コレッリの主題による変奏曲」そして様々なトランスクリプション（編曲作品）にも取り組みたいです。ラフマニノフによるピアノ編曲版は、音色づくりなどでもとても参考になりますし、左右の手で内声を弾き分けるなども多く、とても興味深いです。

初物づくしの大阪での協奏曲デビュー

[指揮] 藤岡幸夫 [ピアノ] 古海行子、森本隼太、田村 響
[管弦楽] 関西フィルハーモニー管弦楽団

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 Op.18 古海行子
チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 Op.23 森本隼太
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」変ホ長調 Op.73 田村 響

2024. 8/30 (金) 6:30PM

全席指定 S 6,000円 A 5,000円(税込)

発売中

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] 一般社団法人全日本ピアノ指導者協会 / ザ・シンフォニーホール



[指揮] 藤岡幸夫

なりませんが、私の演奏はもちろん、爆発力のある若い森本隼太さん、美しいサウンドをもつ田村響さんという個性の違う3人のピアニストによるコンサートになりますので、それぞれの魅力の違いなども楽しんでいただけたら嬉しいです。

(取材・文 伊藤制子)



シャルル・リシャル＝アムラン

ピアノリサイタル
Charles Richard Hamelin

誠実で温かな音楽を紡ぐシャルル・リシャル＝アムランの
ベートーヴェンとショパン

Interview

© 鈴木久美子
取材場所：ヤマハアーティストサービス東京

ザ・シンフォニーホールは大好きなホール

——ザ・シンフォニーホールでの演奏は、9月16日のリサイタルで何回目になるのでしょうか？

最初は、ショパンコンクールの翌年1月のワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団との入賞者ツアーでした。数ヶ月後のリサイタルでは、ショパン《ピアノ・ソナタ第3番》を中心としたプログラム、3回目は2018年の春にショパンのバラード全曲を中心としたプログラム、4回目は同じ2018年9月にショパンの2曲の協奏曲、5回目はコロナ禍を経て2022年12月にショパン《24の前奏曲》を中心としたプログラムを聴いていただいたので、今回が6回目になります。

——よく覚えていらつしやいますね。ザ・シンフォニーホールは大好き

なホールですから。日本には素晴らしいホールがたくさんあります

が、ザ・シンフォニーホールの豊かな響きにはいつも魅了されます。聴衆の方たちも温かく、カナダのケベック州という地球の反対側と言ってもいいような遠いところから来た私が皆さんと音楽を通してコミュニケーションできるなんて凄いいことだと思います。大阪の街も大好きです。リラックスできる雰囲気、活気にあふれていて、時間があるときは、街歩きを楽しんでいます。食べ物も美味しいです。

ベートーヴェンとショパンの多彩な側面に迫りたい

——これまでのリサイタルはオール・ショパン・プログラムでしたが、今回は前半にベートーヴェンの作品27の2曲のソナタを聴かせていただきます。

近年、ベートーヴェンの作品をたくさん弾いています。モントリオール交響楽団のコンサート・マスター、アンドルー・ワンとの共演でヴァイオリン・ソナタ全曲を録音したり、第3番、第4番、第5番のコンチエルトは北米で何度も演奏しました。また、この2年ほどピアノ・ソナタに取り組んでいて、そのなかでも、ベートーヴェンが「幻想風ソナタ」として書いた作品27の2曲に心惹かれています。2曲目の《月光ソナタ》が有名ですが、2曲続けて弾くことで、これらの作品がいかに革新的だったのかを感じてほしいと思います。ゆっくりとしたテンポの緩徐楽章から始まり、曲全体が有機的に構成されていることなど、当時としては実験的な試みが随所に見られます。伝統的なソナタ形式を打ち破り、ロマン派の世界に足を踏み入れようとしているベ

ートーヴェン中期の意欲作です。——後半はショパン・プログラムですね。

最初に演奏する《演奏会用アレグロ》は、ショパンが2曲のピアノ協奏曲を書いた後、3曲目の協奏曲として構想していたスケッチを、後年ピアノ独奏曲に仕上げたものです。演奏される機会は少ないですが、華やかで重厚な作品です。

トランペット、ホルン、フルートなどさまざまな音色が溶け合うオーケストラ・パートとピアノのソロを弾き分けなければならず、技巧的にきわめて難しいのですが、挑戦してみようと思いました。エレガントで軽やかなワルツとの対比もおもしろいかなと思います。ショパンのワルツは音符の数は少ないですが、細やかな感情が生きて表現されていて魅力的です。お気に入りの8曲を選び、それぞれのキャラクターや調性を考えて並べてみました。ショパンは、私にとって永遠に追求すべき存在で、新たな曲に取り組み度に、長年の友人の新たな面を発見したような気がしています。

音楽への愛を次世代に伝えたい

——今後の抱負をお聞かせください。

30代半ばになって、何も考えずに無防備に演奏していた20代の頃を

懐かしく思います。若いからこそできることもあります。歳を重ね、経験を糧にして前に進んでいかなければと思っています。最近、指導活動にも力を入れています。教えることで、自分自身も学ぶことが多いのです。偉大な教師たちから学んだこと、何よりも音楽への愛を次の世代に伝えたいですね。

——9月のリサイタルに向けて、お客様へのメッセージをお願いします。

ザ・シンフォニーホールには、忘れられない思い出がたくさんあります。ベートーヴェンとショパンの美しい情感にあふれた作品をぜひ聴いていただきたいと思います。

(取材・文 森岡 葉)
(通訳 高島まき)

[ピアノ]シャルル・リシャル＝アムラン

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第13番 変ホ長調 op.27-1 / ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 op.27-2 「月光」
ショパン：演奏会用アレグロ イ長調 op.46 / ワルツ 第14番 ホ短調 (遺作) / ワルツ 第3番 イ短調 op.34-2 / ワルツ 第4番 へ長調 op.34-3 「華麗なるワルツ」 / ワルツ 第12番 へ短調 op.70-2 / ワルツ 第6番 変ニ長調 op.64-1 「小犬のワルツ」 / ワルツ 第7番 嬰ハ短調 op.64-2 / ワルツ 第8番 変イ長調 op.64-3 / ワルツ 第5番 変イ長調 op.42

2024.9/16 (月・祝) 2:00PM

全席指定 6,000円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中

イタリア、ドイツ、ロシアの多様な名作を旅するゴージャスな旅へ——秋のプログラムは、個性的な名曲の絶妙な組み合わせ。しかも、ちよつと他ではみられない独自の構成ですね。レスピーギの『リュートのための古風な舞曲とアリア』を、ピアノ・ソロ版で聴ける貴重な機会でもあります。

レスピーギの曲は、きつとみなさんオーケストラでご存知だと思います、とくに「イタリアーナ」と「シチリアーナ」は。ルネサンスやバロックの雰囲気、感情というのとも違うし、生活感もなく、いまの時代とかけ離れている感じが、非常に魅力的な組曲ですね。

——今回のために初めて取り組むレパートリーですか？

初めて弾きます。レスピーギのピアノ曲はけっこうあって、譜面をみてみたら、みなさんきれいだ。ただ、あの時代の作曲家としては、ピアノリズムの手法として新しさがない。でも、なんともいい曲なんです。魅力だけでできているような。つまり天才なんです。

——いっぽうベートヴェン最期の



大阪で10年ぶりのリサイタルは、ピアノの限界を超えたピアノの名曲で。ピアノ・ソナタとムソルグスキーの『展覧会の絵』は長年の愛奏曲ですね。ほんとうに大好きなんです。ベートヴェンは32曲のソナタを締めくくる文句なしの傑作。ベートヴェンの発想はもう、楽器というものを大きく超えてしまっている。なにかすごい妄想のなかで出てきたような曲だから。

——ピアノをはみ出した想像力が強く籠められているのは、ムソルグスキーにも通じるところがあるように思います。

なにかありのままみたいな人ばかりはすごく好きなんです。『展覧会の絵』はオーケストレーションの下書きにしか見えないような譜面で、自分が作品に参加している感じがとても強い。ごつごつしていて、音の数も少ないのに、うまく弾けると巨大なものができてる……。

——ピアノを弾いているのだけれど、ピアノを超えた大きなものを扱っている喜びが感じられるのですか？

ぼくはそういう曲が好きなんです。だから、とくに今回の曲はどれも楽器の扱いが器用にできるだけではなく、武骨さとか不器用さみたいなもの



大阪で10年ぶりのリサイタルを、選りすぐりの愛奏曲で。

清水和音

ピアノ・リサイタル

Piano Recital

[ピアノ] 清水和音

レスピーギ：リュートのための古風な舞曲とアリアより 小舞曲（オルランド伯爵）、ヴィツラネッラ、ガリアルダ、イタリアーナ、シチリアーナ、パッサカリア
ベートヴェン：ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 Op.111
ムソルグスキー：展覧会の絵

2024.11/10(日) 2:00PM

全席指定 6,000円(税込)

[お問い合わせ] キョードーインフォメーション 0570-200-888

[主催] PROMAX/朝日新聞社/ザ・シンフォニーホール

発売中

© 鈴木久美子

福岡光太郎

日本デビュー20周年記念

ピアノ・リサイタル

Stories
ストーリーズ

Interview
前編

©Shuga Chib

撮影協力：スタインウェイ&サンズ東京



デビュー20周年、前半は英雄の人生を描く
シヨパン・プログラム

来る10月、日本デビュー20周年リサイタルを行う福岡光太郎。「ストーリーズ」と題し、前半はシヨパンの名曲、後半は管弦楽曲の編曲作品というプログラムを披露する。インタビュー前編では、これまでを振り返っての想い、前半のシヨパンについてのお話を紹介する。

——20年の活動を振り返っていかがですか？

私の日本デビューリサイタルは、2004年7月のことです。当時は事務所に所属せず、自主公演としてすべて自分たちでやっていました。最初の年は予想以上に多くのお客様が来てしまったり、翌年はその逆だったり、いろいろな失敗を繰り返しながら舞台上に立ってきたので、公演を作り上げることがどれだけ大変か身をもって知ることになりました。そのおかげで、お客様の求めるものに応えながら、やりたい

こともしっかりとやる今のスタンスを固められたと思います。

これからの名曲とあわせて知られざる作品や同時代の音楽も取り上げて、芸術の発展や自分の成長も意識した活動を続けたいですね。

——リサイタルでは、まず前半でシヨパンの名曲を演奏されます。

シヨパンは私がピアノを始めた頃から大好きな作曲家です。シヨパンの音楽があつたからこそ、これだけピアノが好きになったと言っても過言ではありません。

「英雄ポロネーズ」は、手がオクターヴに届かないうちから母に頼み込んで楽譜を買ってもらい、届かない音は省いて弾いていた憧れの曲でした。「幻想ポロネーズ」はニューヨーク、日本のデビュー公演で弾いています。

これらは何度も演奏した曲ですが、逆に「葬送ソナタ」は随分前に一度取り組んだにもかかわらず、本番で弾いたのはようやく2年前、39歳の時というレパートリーです。高校卒業後パリに留学してすぐ、ブルーノ・リグット先生からいただいた課題の一つでしたが、先生からまだちよつと早いかと言われてしまったこと、目の前で弾いてくださった先生の演奏があまりに感動

的だったのとで、自分には深い精神性がまだ理解できていない……と諦めてしまったのです。それから20年、39歳はシヨパンが亡くなった歳でもあります。その時感じた自分の死生観を投影してようやく作品に対峙できました。

——プログラムにはどんなストーリーがあるのでしょうか？

シヨパンの時代のポーランドは隣国の支配を受けていました。英雄ポロネーズ、葬送ソナタ、幻想ポロネーズという流れで、祖国や愛する人のため戦う英雄の人生と死、英雄へのオマージュを描きたいと思っています。(6号へ続きます)

(取材・文 高坂はる香)

[ピアノ] 福岡光太郎

《ストーリーズ》

シヨパン：ポロネーズ 第6番 変イ長調 op.53「英雄」/ソナタ 第2番 変ロ短調 op.35「葬送」/ポロネーズ 第7番 変イ長調 op.61「幻想ポロネーズ」/ワーグナー：楽劇「トリスタンとイゾルデ」より前奏曲（福岡編曲）、イゾルデの愛の死（リスト編曲）/ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲（ボルヴィック編曲）/スメタナ：「わが祖国」より「モルダウ」（福岡編曲）

2024.10/19(土) 2:00PM

全席指定 S 4,500円 A 4,000円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中

こみちゃんの 温故知シン《vol.10》

小味渕 彦之 (こみぶち ひろゆき／音楽評論家)



© 日本センチュリー交響楽団

日本センチュリー交響楽団が2015年から始めたプロジェクトが「ハイドンマラソン」。104曲ある番号のついたヨーゼフ・ハイドン(1732～1809)の交響曲を全曲演奏しようという趣向もない企画です。この演奏会シリーズが今年度末の来年3月で「めでたく」完遂のゴールを迎えようとしています。すべてのコンサートで指揮を務めてきた同楽団の首席指揮者の飯森範親さんは「最後までたどり着くとは思わなかったでしょ(笑)」と、先日お話をした際におっしゃっていましたが、まさにこの計画が発表された10年前にまず頭に浮かんだのが「ほんとに全部できるのかな?」ということでした。

「ハイドンマラソン」の第1回は、2015年6月5日にいずみホール(当時)で開かれた同楽団の「いずみ定期演奏会 No.27」です。この時、演奏されたハイドンの交響曲は演奏順に《第35番》《第17番》《第6番》の3曲。あわせてアントニオ・メネセスのチェロで同じハイドンの《チェロ協奏曲 第2番》が取り上げられています。9年前のことに、ずいぶん時

間が経過したようにも思うのですが、この日のことは今も記録された音で確かめることができます。「ハイドンマラソン」で演奏されてきたハイドンの交響曲は、そのすべてがレコーディングされてオクタヴィア・レコードからCD発売されてきたのです。これまでに(6月末まで)24枚がリリースされ、77曲のハイドンの交響曲が収録されています。

ハイドンの交響曲に対するおおよそ一般的なイメージは、古典派らしい整った音楽形式を持っている端正な音楽というものでしょう。私自身も「ハイドンマラソン」が始まるまではこうした印象を抱いていました。とはいえ104曲の存在はわかっていても、後期の有名な作品やニックネームが付いたいくつかの作品を知っていただけで、ひとつ一つの交響曲を認識するには至っていませんでした。「ハイドンマラソン」の一回一回で演奏された知らない交響曲を聴くと、驚きました。どの曲にも奇想天外と言ってもよい創意工夫が、これでもかというほどに施されていたのです。

ひとつだけ例を挙げてみましょう

う。1788年に書かれた《交響曲 第90番》。長く雇われたエステルハージ家の宮廷楽長を務めながらも、すでに自由な音楽活動が許されていた時期の作品です。ハイドンは56歳を迎えていました。第4楽章のフィナーレは軽やかさも感じさせながら賑々しく活発に進みます。そして明らかに「一曲が終わった!」と感じさせる場面が訪れるのですが、オーケストラは4小節の沈黙の後に、あらためてコーダ(終結部)を奏するので。まさに音楽上のいたずら。お茶目なハイドンがあらわれます。

世界でも類をみない「ハイドンマラソン」も残すところあと2回。104曲の交響曲の半分の数となる52曲を演奏し終えたのを機に2020年からこざ・シンフォニーホールで開かれるようになった「ハイドンマラソン」ですが、以降は作品番号に準えて「HM-」という番号がつけられてきました。10月10日開催の「HM-37」と来年3月21日に予定される「HM-38」で見事に大団円。皆さんでこの壮大な道のりのゴール・インをお祝いしようではありませんか!



© 武藤章

ベートーヴェン × シューマン 上原彩子 Ayako Uehara Piano Recital

幻想とユーモア
上原彩子がつむぎだす音の万華鏡

日本人としてチャイコフスキー国際コンクールで初めて優勝して以来、世界から注目を浴び、年々その演奏を深めてきた上原彩子。その深化はとどまることを知らない。幅広いレパートリーを誇るが、ここ最近では、新しい曲にもチャレンジしており、チャイコフスキーの珍しい協奏曲 第3番を披露するなど、高い評価を受けている。

すでにザ・シンフォニーホールには何度も出演し、関西のファンにもすっかり知られた存在の上原だが、11月4日のリサイタルは、ベートーヴェンとシューマンを軸にした王道プログラムである。

上原によれば、プログラムのテーマは「幻想とユーモアの奥に広がる深淵な世界」という。近年集中してとりこんでいるというベートーヴェンのソナタから、第17番「テンペスト」と第7番が選ばれた。そしてこのベートーヴェンと交互に演奏されるのが、上原が大好きだというシューマンである。ファンタスティックな魅力にあふれた「幻想曲」、そしてリサイタルのしめくくりとして、名曲「謝肉祭」が演奏される。まさにユーモアにあふれたシューマンのきらびやかな世界が、上原のピアノで描きだされるのが楽しみである。

(文 伊藤制子)

[ピアノ] 上原彩子

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第17番 二短調 op.31-2「テンペスト」
シューマン：「幻想曲」ハ長調 op.17
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第7番 二長調 op.10-3
シューマン：「謝肉祭」op.9

2024. 11/4 (月・休) 2:00PM
全席指定 5,000円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中



和太鼓 林英哲

指揮 ダグラス・ポストック

© M.Tominaga

© Peter Adamik

Shion Osaka Shion Wind Orchestra 第156回定期演奏会

© 飯島隆

ダグラス・ポストックが挑む日本の伝統

ダグラス・ポストックとの歩みは今年も続きます。今回のプログラムは邦人作品のラインナップで、いずれもポストックと日本を繋ぐ大切なレパートリーと作曲家たちが並び、どれをとっても素晴らしい作品です。

前半は日本の吹奏楽レパートリーにおける金字塔の2作「シンフォニック・バンドのためのパッサカリア」と「吹奏楽のための木挽歌」、そしてポストック自身の5月の台湾公演で喝采を受けた作品である「台湾狂詩曲」は、2024年度の改訂版として日本初演でお送りいたします。

後半はポストックが敬愛する作曲家の一人、松下功作曲の、和太鼓と吹奏楽のための「飛天3部作」を、氏の盟友であり、和太鼓ソリストとしてのパイオニアである林英哲とともにお届けいたします。

飛天3部作のうち、第1曲「飛天の舞」、第2曲「飛天の祈り」はポストックが初演の指揮を務め、自身にとっても重要なレパートリーとして取り上げてきた作品です。松下功は2018年に残念ながら早逝されてしまいましたが、生前より親交が深く、作曲作品にも精通しているポストックと林英哲、そして気迫のShionとが融合し、圧倒的な臨場感でホールを揺るがすことでしょう。

[指揮] ダグラス・ポストック [和太鼓] 林英哲
[吹奏楽] Osaka Shion Wind Orchestra

兼田敏：シンフォニック・バンドのためのパッサカリア／小山清茂：吹奏楽のための木挽歌／伊藤康英：吹奏楽のための「台湾狂詩曲」(2024年改訂版)／松下功：飛天3部作「飛天の舞」、「飛天の祈り」、「飛天遊」
※やむを得ぬ事情により、出演者、曲目等が変更になる場合があります。予めご了承ください。

2024. 9/22 (日) 2:00PM
全席指定 S 6,000円 A 5,000円 B 4,000円 C 2,500円 学生価格 3,000円(税込)
※C席は、Shionチケットセンター、Shionオンラインチケットのみでの販売。※学生価格は、Shionチケットセンターのみでの販売。
[お問い合わせ] Shionチケットセンター フリーコール：0800-919-5508 (平日10:00～17:30)
[主催] 公益社団法人 大阪市音楽団

発売中

TheSymphonyHall × 関西4オケ *Pick Up* コンサート

日本センチュリー交響楽団

日本センチュリー交響楽団 第284回定期演奏会



管弦楽 日本センチュリー交響楽団



指揮 太田 弦

[指揮]太田 弦 [ヴァイオリン]前田 紀奈
[管弦楽]日本センチュリー交響楽団

ブルッフ:スコットランド幻想曲 op.46
ウォルトン:交響曲 第1番 変ロ短調

2024.9/21 (土) 2:00PM
全席指定 S 8,000円 (サイン入りプログラム付き)
A 6,500円 B 5,000円 C 3,500円 D 2,000円

[お問い合わせ]センチュリー・チケットサービス 06-6848-3311
[主催]公益財団法人 日本センチュリー交響楽団

発売中



ヴァイオリン 前田 紀奈

センチュリーの今シーズンの中で最もフレッシュなアーティストをお迎えしての英国プログラム。指揮には若年30歳ながら国内有数の楽団から厚い信頼を寄せられオファーが絶えない太田 弦。そしてソリストは2022年ヴェニシアフスキ国際コンクール優勝のほか、輝かしい受賞歴を誇る前田 紀奈が初登場です。21歳の弾ける笑顔がチャームイングな、今大活躍のヴァイオリニストです。センチュリーの極上のアンサンブルと瑞々しい演奏をご堪能ください。

大阪フィルハーモニー交響楽団

ソワレ・シンフォニー Vol.24



管弦楽 大阪フィルハーモニー交響楽団



指揮 原田 慶太楼

[指揮]原田慶太楼 [ピアノ]小曽根 真
[管弦楽]大阪フィルハーモニー交響楽団
バーンスタイン:「キャンディード」序曲
バーンスタイン:「ウェストサイド物語」セレクション
ガーシュウィン:「パリのアメリカ人」
ガーシュウィン:「ガール・クレイジー」序曲
ガーシュウィン:「ヘ調の協奏曲」

2024.10/11 (金) 7:00PM
全席指定 A 5,500円 B 3,500円
[お問い合わせ]大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890
[主催]公益財団法人 大阪フィルハーモニー協会

発売中



ピアノ 小曽根 真

お仕事帰りに気軽に立ち寄れる演奏会というコンセプトで2014年にスタートした平日夜の名曲シリーズ「ソワレ・シンフォニー」。今回は、「ウェストサイド物語」「パリのアメリカ人」「ガール・クレイジー」など、バーンスタインやガーシュウィンのブロードウェイやミュージカル映画で大成功を収めた作品を集めました。プログラムの最後はジャズ界のスター・小曽根真が登場。シンフォニック・ジャズのアイコン的存在であるラフディン・ブルーではなく「ヘ調の協奏曲」を聴けるのも楽しみです。

大阪交響楽団

第274回定期演奏会「音楽と舞踏」



管弦楽 大阪交響楽団



指揮 高橋 直史

[指揮]高橋 直史(首席客演指揮者) [ピアノ]中川 優芽花 ★
[管弦楽]大阪交響楽団

尾方凛斗:大阪交響楽団 委嘱作品/ラフマニノフ:バガニニの主題による狂詩曲 op.43 ★/エネスコ:ルーマニア狂詩曲 第1番 イ長調 op.11-1/ファリャ:バレエ組曲「三角帽子」第2組曲/ホセ・パブロ・モンカーヨ:ウアパンゴ/外山雄三:管弦楽のためのラプソディ

2024.9/5 (木) 7:00PM
全席指定 S 6,000円 A 5,000円 B 3,500円 C 2,500円 オルガン 2,000円
[お問い合わせ]大阪交響楽団チケットセンター 072-226-5522
[主催]公益財団法人 大阪交響楽団

発売中



ピアノ 中川 優芽花

大阪交響楽団首席客演指揮者の高橋直史が放つテーマ性に満ちた定期演奏会の第3弾は、音楽と舞踏の世界!ホセ・パブロ・モンカーヨのホットなメキシコ民俗舞曲「ウアパンゴ」や、盆踊唄「八木節」が豪快に鳴り響く故外山雄三の「管弦楽のためのラプソディ」のほか、舞踏家フォーキンによりバレエ化もされたラフマニノフの「バガニニの主題による狂詩曲」では、第29回クララ・ハスキル国際ピアノコンクール(2021)の覇者、中川優芽花のピアノが華麗に舞います。そして竜躍雲津、第12回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール(2019)で第1位に輝いた尾方凛斗の新作もご期待あれ!

関西フィルハーモニー管弦楽団

関西フィルハーモニー管弦楽団第349回定期演奏会 『アパッショナート…吹けよ仏蘭西・ 西班牙の風、呼べよ情熱の嵐』



管弦楽 関西フィルハーモニー管弦楽団



指揮 オーギュスタン・デュメイ

[指揮]オーギュスタン・デュメイ [ギター]大萩康司
[管弦楽]関西フィルハーモニー管弦楽団
フォーレ:バヴァース op.50/ロドリゴ:アランフェス協奏曲/ドビュッシー:牧神の午後への前奏曲/ビゼー:「カルメン」組曲(前奏曲/アラゴネーズ/間奏曲/セギディリヤ/アルカラの竜騎兵/闘牛士)/ラロ:スケルツォ ニ短調

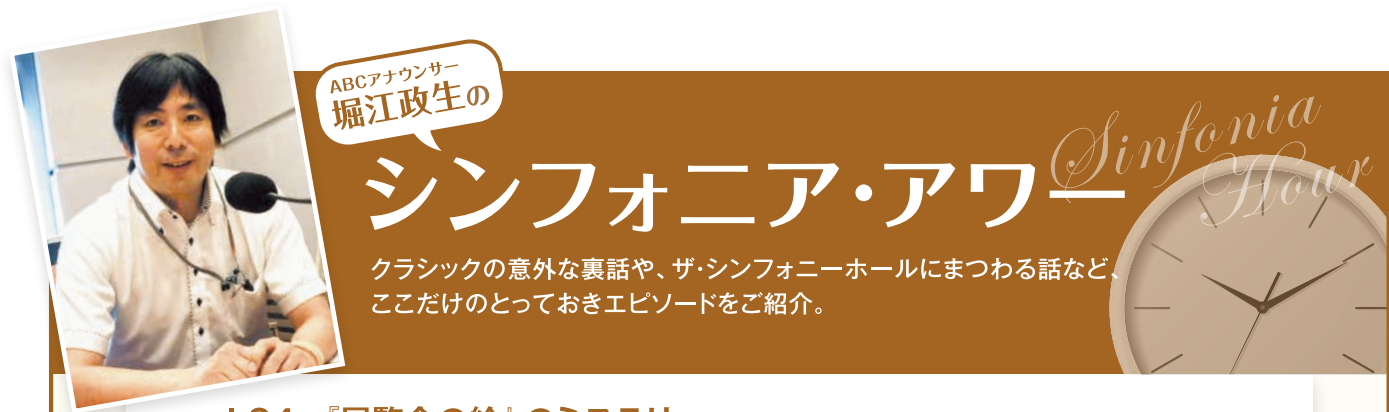
2024.9/20 (金) 7:00PM
全席指定 S 6,500円 A 5,000円 B 3,500円 C 2,500円
学生席(25歳以下) 1,000円 ※学生席は関西フィル事務局のみ取扱
[お問い合わせ]関西フィルハーモニー管弦楽団 06-6115-9911
[主催]公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団

発売中



ギター 大萩 康司

熱く歌い上げるソロ。大萩康司の激情迸るロドリゴ(「アランフェス協奏曲」)。湧き出るメロディの数々は一気呵成に駆け抜けてゆく。縦横無尽に発揮される、華やかなヴィルトオーージティ。
ビゼー「カルメン」は、第351回定期演奏会(11月29日(金)開催)で上演するラヴェル「ボレロ」にもつながるスペイン風異国情緒満載の人気作。フォーレ、ドビュッシー、ラロといったフランスの逸品も散りばめられたこの絢爛豪華なプログラムを、音楽監督デュメイが天才的な包丁さばきで見事に料理致します。



ABCアナウンサー
堀江政生の

シンフォニア・アワー

クラシックの意外な裏話や、ザ・シンフォニーホールにまつわる話など、
ここだけのとっておきエピソードをご紹介します。

vol.64 『展覧会の絵』のミステリー

前号に引き続き、ザ・シンフォニーホールのコンサートに朗読者として参加した『展覧会の絵』について
筆を進めてみます。(2月12日 秋山和慶さん指揮・大阪市民管弦楽団)

親友の画家ガルトマンの遺作展で観た数々の画に触発されて、ムソルグスキーが作った組曲の4曲
目に『ヴィドロ(牛車)』という曲があります。重たい荷車を曳き、大きな目を見開いて苦しげな表情を浮
かべながら坂を上がってくる牛。フォルテ、フォルテシモ…。音が大きくなるにつれて牛の悲鳴が聴こえ
てくるようで、耳をふさぎたくなるような恐怖感を覚えます。

しかしそこには牛の画は展示されていなかったのです。では、ムソルグスキーは何を観たのでしょうか。
この曲の大きなミステリーです。

演奏会で配布されたプログラムには、元になったガルトマンのいくつかの画が印刷されていました。
『ヴィドロ』のところを見ると、処刑台に群がる人々とそれを監視しているような軍人の姿を描いた
スケッチ画が載っています。タイトルは『ポーランドの反乱』。ロシアからの自由を求め蜂起した民衆を
押さえつけようとする兵士を描いていたのです。耳をふさぎたくなるような恐怖感は、親友が観た眼を
そむけたいような場面を音楽にしたものだったのです。

ロシア人作曲家ムソルグスキーは、曲名を『ポーランドの反乱』とはしませんでした。体制批判につ
ながるからです。そこで、苦しむ民衆を荷車を弾く牛になぞらえ『ヴィドロ』としました。一方、ポーランドと
いえばショパンです。ショパンは民衆蜂起によって生涯祖国に帰ることが出来ず、異国の地で家族や
ポーランドの人々を憂っていました。ムソルグスキーは『ヴィドロ』の中にショパンの有名な葬送行進曲
を忍ばせることで、暗に『ポーランドの反乱』であることを示したのです。

心の友を失い、とり憑かれたかのように書き上げた組曲。そこには芸術家としての意地が籠ってい
たのですね。

公演の聴きどころ、豪華ゲストを招いてのお話など、名曲とともにご紹介!

🎧 堀江政生のザ・シンフォニーホール・アワー

ABCアナウンサー堀江政生が、豊富なクラシック知識を余すところなく語る30分。



毎週日曜日
あざ7時～7時30分

The Symphony Time

ザ・シンフォニータイム



毎週土曜日 あさ10時～11時 **ON AIR**
リピート放送 毎週月曜日 20時～21時

ザ・シンフォニーホール音楽総監督・ゼネラルマネージャーの喜多弘悦
がクラシック音楽をより多くの方に聴いていただけるよう、わかりやすく
楽しい軽快なトークとともに、クラシックの名曲をご紹介します!

topics

アプリで聴けるようになりました!



The Symphony Timeがスマホアプリ
で視聴できるようになり、全国どこでも
手軽に聴くことができます!

引き続きCS放送、USENでもリアルタイムに配信。

USEN

※ご契約内容によって聴取
いただけないエリアがご
ざいます。



FM++(エフエムプラス)
とは、コミュニティFM
向けのスマートフォン
アプリです!



このQRコードを読み取り、
iphoneの方はApp Storeで、
Androidの方はGoogle play
からダウンロードを!

音楽を愛する団体が集い、夢を発信する 「ザ・シンフォニーホール」。

今回は、日ごとに秋の気配を感じる9月に開催される2公演、今年創立50周年を迎え多彩なプログラムに挑む
「パナソニック合唱団 第47回定期演奏会」と、創立54年でますます意欲的に活動する「大阪市民管弦楽団
第98回定期演奏会」をピックアップ! 長年の経験や実績に裏打ちされた2団体の熱いステージをぜひお楽し
みください!

MESSAGE

創立50周年ーパナソニック合唱団 第47回定期演奏会

創立50周年ー パナソニック合唱団 第47回定期演奏会

[指揮] 本城正博・米澤康浩

[ピアノ] 天本麻理絵

[合唱] パナソニック合唱団

F.Martin:無伴奏二重合唱のためのミサ曲

團伊玖磨:混声合唱組曲「筑後川」

世界の名曲選～こころの深淵～

邦人作曲家名曲ステージ～いのちということ～

2024.9/7(土) 5:30PM

事前座席指定 2,000円(税込)

[お問い合わせ]

パナソニック合唱団(担当:世良)
090-2466-1178



今回は、スイスの作曲家「フランク」マルタンの代表作「無伴奏
二重合唱のためのミサ曲」や、今年生誕100周年のメモリアル
イヤーを迎えた作曲家「團伊玖磨」による不朽の名作「混声合唱
組曲「筑後川」」を演奏します。終曲「河
口」の壮大かつ感動的なフィナーレはご存
じの方も多いのではないのでしょうか。さら
に生誕200周年のブルックナーをはじめ
とする世界の名曲ステージ、三善晃氏な
ど日本の合唱曲ステージも含め、色とり
どりの合唱音楽がお楽しみ頂けます。皆
さんのご来場を心よりお待ちしております。

創立50周年ーパナソニック合唱団「第47回定期演奏会」を開催
1974年に創立したパナソニック合唱団は、パナソニックグ
ループ社員を中心とした約90名の職場合唱団であり、今年50周
年を迎えました。これまで数々の演奏会はもとより、全日本合
唱コンクール全国大会では通算22回の金賞受賞など様々な実
績を有しています。また活動の幅は国内に留まらず、スペイン
(1999年)、ニューヨーク(2005年)、中国北京大連(20
08年)にて演奏会を開催し好評を博しました。
1990年からザ・シンフォニーホールにて開催している定期
演奏会も、今年で47回を数え、これまで国内外の著名な先生
方への委嘱、招聘、オーケストラとの共演など様々なパフォーマ
ンスを行ってきました。

MESSAGE

大阪市民管弦楽団 第98回定期演奏会

大阪市民管弦楽団 第98回定期演奏会

[指揮] 上田真紀郎

[管弦楽] 大阪市民管弦楽団

ワーグナー:

歌劇「タンホイザー」序曲

チャイコフスキー:

幻想序曲「ロメオとジュリエット」

シューマン:

交響曲 第2番 八長調

2024.9/8(日) 2:00PM

入場料 2,000円(税込)

※座席指定料金500円含む

[お問い合わせ]

大阪市民管弦楽団
090-9050-6199



One for All, All for the Harmony

大阪市民管弦楽団は、1970年創立のアマチュ
アオーケストラです。今回は、上田真紀郎氏を客演
指揮者としてお迎えし、シューマンの交響曲第2番
を演奏します。上田氏とは、2023年の96回定期
演奏会に続き、二度目の共演となります。
上田氏はヴァイオリン、ヴィオラ奏者として数々
のプロのオーケストラに客演される一方、アマチュア
オーケストラの指導・指揮も熱心に取り組まれてい
ます。当団との付き合いも長
く、これまでトレーナーとして
我々の音楽技術発展のために
ご尽力いただいてまいりまし
た。その温厚な人柄と、言葉巧
みで分かりやすい音楽解釈の
説明は、多くの団員から絶大
なる支持を得ています。
このように指揮者も団員も
一体となって、より魅力的な音
楽を皆様にお届けすべく、日々
練習に取り組んでいます。皆様
のご来場を心よりお待ちしております。

CONCERT PHOTO REPORT

2024年5月6日(月・祝)

0歳児からの“光と映像で楽しむ”オーケストラ Vol.19

[指揮]松元宏康 [ゲスト]横山だいすけ [管弦楽]大阪交響楽団



今回で19回目の開催となった「0歳児からのオーケストラ」。今回は「だいすけお兄さんと運動会に行こう」というタイトル通り、聞いていて元気の出る曲が多く取り上げられました。多くの親子連れのお客様を客席にお迎えし、プロジェクションマッピングの映像とオーケストラの演奏のコラボレーションを楽しんでいただいたほか、ゲストの横山だいすけさんと共に歌ったり体を動かしたりしながら、全身で音楽を感じていただきました。



2024年5月18日(土)

ライト・シンフォニックコンサート～大人の癒し～『オペラの世界へ』

[指揮]柴田真郁(大阪交響楽団ミュージックパートナー) [歌とトーク]江原啓之 [管弦楽]大阪交響楽団



いつもとは一味違ったクラシック音楽の楽しみ方をお届けする「ライト・クラシックコンサート」。第10回目の記念すべき本公演には、近年は創作オペラへの挑戦など幅広く活躍するバリトン歌手、江原啓之さんをゲストにお迎えし、名作オペラのアリアや序曲などをお楽しみいただきました。江原さんの伸びやかでパワフル、そして優しさをも感じさせるその美声がホールいっぱいに響き渡り、客席からは多くの「ブラヴォー」の声が盛大に聞こえていました。

クラシック音楽の魅力、
ホールの舞台裏の様子などザ・シンフォニーホールの
情報をいち早くチェック!

Facebook



Instagram



The Symphony Gallery

ホールロビーに新たなアートが登場!

ホール各階ロビーに国内外の絵画を数多く展示するなど、音楽鑑賞だけでなく、ギャラリーとしての役割を持ち、来場者に「総合芸術空間」を提供するザ・シンフォニーホール。今回ホールに新たに登場したのは、「アートによって作者と社会のつながりを広げていきたい」をテーマに、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会が企画する『art bridge』による作品。

『art bridge』とは、障がいのある方を中心とする多様な背景を持つ、関西エリアで活動するアーティストによる、力あるアート作品を貸出し、多様な感性に触れて理解を深めても

らおうという想いのもと展開するプロジェクト。全11作品、グッと心惹かれる個性豊かな作品が1階後部ロビー、2階サイドロビーに展示されていますので、コンサートにお越しいただいた際には是非、ご鑑賞ください。

art bridge

詳しくは
WEBサイトで
チェック▶▶▶